

城取博幸の
愛媛県のスーパーマーケット見聞録

NO152
2023年2月
城取フードサービス研究所
城取 博幸

松山と山頭火

2023-02-26 16:58:58

松山の一草庵

松山は山頭火が亡くなった場所だ 亡くなる前年は伊那の「井上井月」の墓参りをしている
伊那に住む者として一度訪れたかった場所 松山は前にも来たがここは行かなかった
市電路線図



市電「赤十字病院前」で下車



まっすぐ進むと「愛媛県護国神社」



案内図



梅の花がキレイだ



「ああ特攻」の碑

これは知覧特攻記念館(陸軍)に置かれているものと似ている



特別攻撃で6千余名が散華したと書かれている



隣はゼロ戦のプロペラ



プロペラの構造



プロペラが発動機の公称回転を保つように速度に敏感に対応できるように設計されているという
当時としては最高技術であった



日本海軍零戦プロペラ

このプロペラは太平洋戦争当時最新鋭戦闘機として活躍した日本海軍の零式戦闘機に使用された可変ピッチ式(恒速プロペラ)のものである。恒速プロペラは発動機の公称回転をたもつように速度の変化に敏感に応じて自動的にプロペラのピッチが調節される仕組みになっているもので当時においては最高水準をいくものであった。
昭和43年10月宇和島市神田川原3区加藤勉氏が西宇和海で操魚中網にかかったものを回収し当松山駐とん部隊に寄贈されたものである。
(平成13年9月愛媛県護国神社に移転しました)

お参り



前の道を右に進むと案内版が



俳人山頭火一草庵みち



ここが一草庵

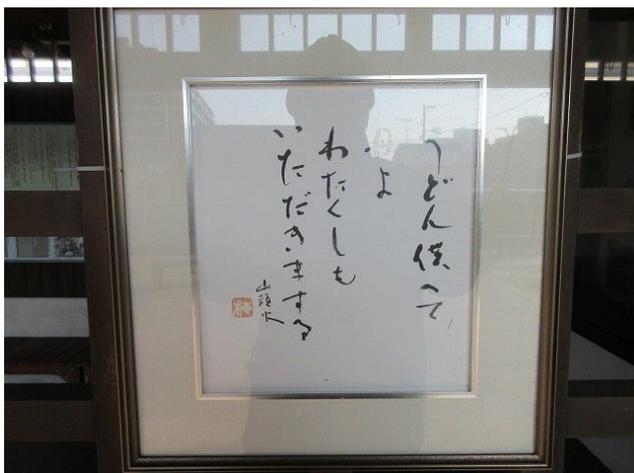
右の建物はトイレと休憩所



写真



母を思う心 光る部分の字は「母」
子どもの頃に母を亡くしている
いい句ですね



句碑



濁れる水のなか(が)れつつ澄む 山頭火

これもいい句だ



再現された一草庵



旧館であった 開館は土日のみ

スケジュール上仕方ない



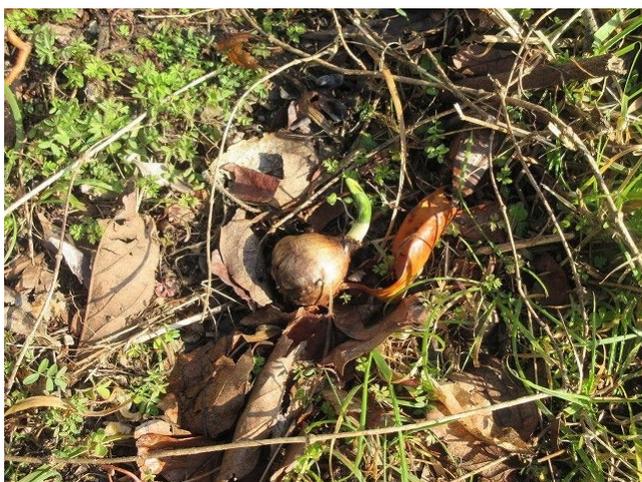
パンフレットでは位牌の上に「網代笠」とあると書かれているが今日はない



もう水仙が咲いている



球根も見える



古い井戸



山頭火の俳句、日記は道後温泉の「正岡子規資料館」に保管されているという



山頭火の年譜を見ると

昭和 9 年(1934 年)伊那の井上井月の墓参りに挑んだが、飯田で肺炎にかかり入院と書かれているが

亡くなる前年昭和 14 年(1939 年)5 月にも伊那を訪れている

それが書かれていない

それを追加してくれればうれしい

伊那の井上井月の墓



丸い石が一つ



六道の山頭火の句碑



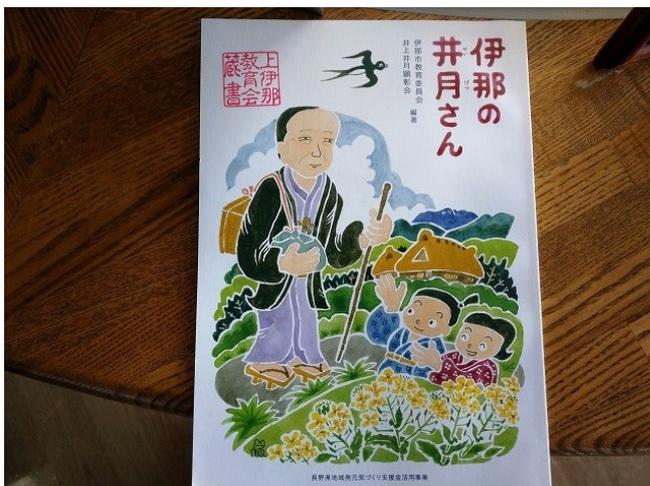
拡大してお読みください



こんな絵も



伊那教育員会発行蔵書



無人の一草庵に置くわけにはいかないので

「伊那の井月さん」の漫画と信濃毎日新聞の切り抜きを持って松山市教育委員会へ



事情を説明して

一草庵を管理するNPO 団体に渡してくれるという

ありがとうございます



山頭火の生地、墓のある山口県防府市も今回訪問する予定です

井上井月の生まれた新潟県長岡市にも行って見たい

点と点を結ぶのが旅の醍醐味

今晚の夕食 松山城に向かう道を進むと



野菜料理の店を発見 いろいろ食べ過ぎて胃腸が疲れている



店の名は「SHOSHO」



野菜の多い「デラックス定食」を注文

これも食べ過ぎかも



フルーツジュース



料理が出てきた



玄米ご飯



とり天の秘伝ネギソース



舞茸とブロッコリーの煮物



煮大根の和え物



鯖の味噌粕漬け焼き、ベーコン、カマンベールポテトサラダ



デザートは野菜のクレームブリュレ



表面はパリパリ



1月2月は忙しくなかなかブログがかけなかった
インスタグラム「hirosiro5」は頻りに更新しています
よかったらどうぞ

次回は道後温泉を紹介します

目的は伊予の藩主であった河野氏が「承久の乱(1221年)」で天皇側につき敗れ、
一族の「河野通政」が信濃羽広(伊那市西箕輪羽広)に山流しにあったと記録されているため、資
料館で詳しく聞いてみたいからだ
ここで羽広から来たのは初めてと歓迎される

道後温泉「湯築城跡」と「宝蔵寺」

2023-03-01 17:00:16

松山から道後温泉へ



後方の運転席



道後公園で下車



湯築城跡入口



「ななかまど」か？



湯築城 1334年～1336年、伊予の守「河野通盛」がこの地に城を築いた
しかし、1585年(天正13年)豊臣秀吉の四国征伐の時、小早川隆景に攻略された



湯築城資料館 入場は無料



湯築城のレプリカ



展示物



発掘されたものが展示されている



河野氏の歴史

承久の乱(1221年)で頼朝に敗れて没落するも、通信のひ孫通有が元寇(1281年)で活躍し一族の力が復活した

足利将軍家と結びつき近隣の大内、大友、毛利などと同盟や縁戚関係を持ちつつ、伊予の守護として地位を確立した

400年間の長きにわたり河野氏の伊予支配が続いたが、秀吉の四国攻めで終止符が打たれた



河野氏略系図

通信の子は5人 一遍上人(智真)は通広の子

「通政」が信濃伊那羽広に流された

これを羽広のお寺で調べたがその痕跡は見つけられなかった

その代わり通政の子「政氏」(美濃河野氏祖)と書かれている

館長にこのへんを詳しく聞くと

場所は「豊丘」だという

長野県下伊那郡豊丘村のことだ

当時は美濃と呼んだかもしれない

ネットで調べてみると河野氏の城跡が存在する

城の敷地を散策

丘の上は展望台になっている



武家屋敷が再現されている



発掘された礎石の配列から、間取りや当時の資料をもとに復元された



武士や僧侶が集まり歌を楽しんでいる様子



これは人工的なもの



内堀土塁

堀を掘りその土を盛り上げた場所



内堀



自然の庭園だ



ぐるっと回って子規記念博物館 ここは前に見たのでパス



子規の句



駅前に戻る 正岡子規の銅像



説明文 子規は野球が好きで野球用語をいろいろとつくった 上野公園に「正岡子規グラウンド」がある



からくり時計



丁度動き始めたところ

時間がなく移動する



足湯



説明文



寶(宝)厳寺(ほうげんじ)へ向かう 一遍上人の寺



向かう途中の左側に「伊月庵(いつきあん)」

テレビでおなじみの「夏井いつき」さんのスタジオ 新しくテラスができている



突撃して私の句を見てもらいたかったが

「山頭火 井月の句と 桜酒」 井月(せいげつ)は「いつき」とも読める



チャイムを押しても返答なし 不在であった 残念



その前は「朝日楼跡」の句「女郎」と「女郎花(おみなえし)」



前と変わらない



裏道も健在



こちらは「寶巖寺」ではなく「宝巖寺」となっている



一遍上人の誕生地 1279年、信濃国佐久郡で「念仏踊り」を始めたと書かれている
1289年、神戸真光寺で死ぬまで全国各地を念仏遊行



句碑



道祖信 いい表情だ



本堂



お参りし合掌



案内



一遍上人像



しばらく見つめると心を読まれているようだ



手の合わせ方に特徴がある



一遍上人の軌跡
長野の善光寺にも行っている



葬式の絵



公家も僧侶も農民も、ライ病の人も皆一緒
それだけ皆に慕われていたということだ



寺の前の蹠蹠(ソテツ)

極楽に導く植物だと言われている



脇の道を通り



次回は「伊佐爾波神社(いさにわじんじゃ)」へ
城跡に行ったり、お寺に行ったり、お宮に行ったり忙しい

道後温泉「伊佐爾波神社(いさにわにんじゃ)」と「道後温泉又神殿(御成門)」

2023-03-04 17:05:05

道後温泉「伊佐爾波神社(いさにわにんじゃ)」



説明文



祭神は、仲哀天皇、神功皇后、応神天皇、三柱姫大神である
社伝によると、仲哀天皇、神功皇后が道後温泉に来浴した時の行在所跡に建てられた神社
現在の社殿は、松山藩主「松平定長」が移築したもの
大分県の「宇佐神宮」、京都の「石清水八幡」と並んで日本を代表する八幡造とされている

応神天皇(4世紀後半～5世紀初頭)は「日本書紀」では渡来人を用いて国家を発展させたと言われ、中世以降は「軍神八幡神」としても信奉された
祖父は、ヤマトタケル
両親は、仲哀天皇、神功皇后
子は「仁徳天皇」と言われている 仁徳天皇陵で有名



こんな石階段 今の階段を見て不思議だと思いませんか？
古代のレンガ積み方式です 大分の宇佐神宮のものとも違います



上から見た景色



手前が拝殿、奥が本殿



まだ新しく見えるがこれが八幡造り



中の様子



御神輿



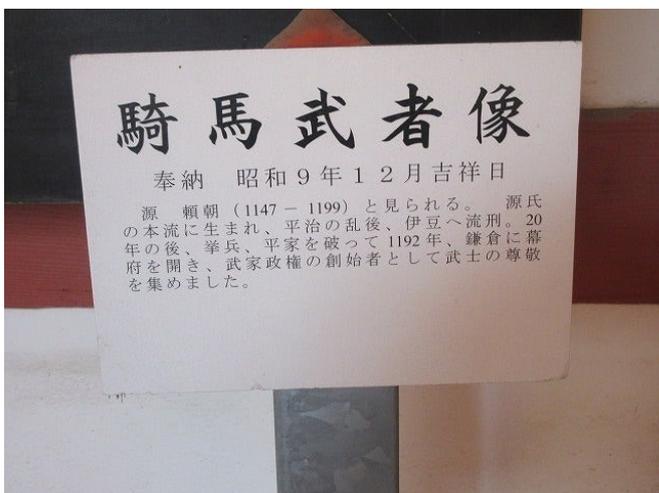
大きな絵馬



和藤内の虎退治



騎馬武者像



四十七士像





見られるものはあまりない
お守りを買って帰る

道後温泉本館
こちらは裏側



又神殿(御成門)全国唯一の皇室専用浴場
皇室専用の御湯殿として明治32年(1899年)に建設された
ここは皇室専用玄関



御居間

障壁画は金箔が貼られている 70人くらい皇室関係者が道後温泉本館に来たが、この部屋に入った者はいなかったらしい 皇室関係者は常識を知っている



中央は砥部焼の菓子器



皇室だけが使う紋様



襖絵には「鶺鴒(いかるが)」と「しめどり」が飛んでいる



左側の壁にも



ぐるっと回って欄間まで飛んでいる



玉座の間 天皇のみ使用することができる部屋 中央に玉座



玉座の奥には「三種の神器」が

右が「八咫鏡(やたのかがみ)」、中央の机「八尺瓊勾玉(やさかにのまがたま)」、左に見える「天
叢雲剣(あまのむらくものつるぎ)」

この辺からうさん臭さを感じ始める



脱衣場



御湯殿

湯釜の石材は「庵治石(あじいし)」

正面から見て左が「大国主命(おおくにぬしのみこと)」、右は「少彦名命(すくなひこなのみこと)」

「健歩如故(けんぽもとのごとし)」は小松宮殿下の御真筆を浮き彫りにしている



壁の色が変わっている所までお湯を溜める



厠(かわや)

ここも誰も使ったことがないという

左に比べて右側の方が広がっている

頭は右側、左の金隠しと言われているものは衣類をかけるもの

ボランティアのガイドにも確認した



ギャグだと思うが、バカ殿様のセットは間違っている 襖絵も逆
着物を巻き込んでいる
日本人として覚えておきたいこと



最後にガイドに質問した
「ここは宮内庁がつくったものですか？」
「いいえ違います 道後温泉初代町長「伊佐庭如矢(いさにわゆきや)」が皇室用に設備したもの」
と答えてくれた



明治時代前にも皇室や聖徳太子も訪れている

推測だが天皇家が祀られている「伊佐爾波神社」のお参りだと思う
表側は今はまだ改装中



伊佐爾波神社の石段近くのうどん屋で昼食 いい場所にある



鍋焼うどんの「まんま」



メニュー



おでんもある



店内



玉子入り鍋焼うどん

少し甘めの肉うどんが基本



松山はの鍋焼うどんは特製鍋を使用



サイドメニュー

右は昆布といりこのかき揚げ

ここしかないメニューだと店主は自慢する



だしをちゃんととっている証拠だ サクサクとしておいしい



五目いなり



EMPTY DISHES ご馳走様でした



駅の蒸気機関車



駅舎のスタバ



松山に戻る 2 回目だったが新しい発見があった